

今シーズンも、いよいよ大詰め！ 「女子プロ野球」ならではの魅力を ぜひ球場で体感してほしい！

2014年9月、日本代表チームがワールドカップで4大会連続優勝！快挙を成し遂げたチームの愛称は「マドンナジャパン」。さてアナタは、これが何の競技かわかりますか？ 正解は「女子野球」。世界の強豪を相手に全勝というからお見事です。この勢いに乗って、いま人気急上昇中なのが女子プロ野球。現在4チームが熾烈な戦いを繰り広げ、球場では熱心なファンが声をからして応援しています。そんななか「スポ・みど」が注目したのは金山亜莉紗選手。デビュー2年目のフレッシュな視点から、女子プロ野球の魅力を話してもらいました。

―野球を始めたきっかけは？

ですよ。

金山 小学校4年生の時でした。それまでは子ども会でソフトボールをしていたんですが、兄が所属していた野球チームで硬式ボールに触れて感覚の違いにびっくり。投げるとビュン！ 打てばスコーン！ 硬式野球ならではの爽快感にすっかり魅せられ、間もなく同チームに入団しました。

―高校時代も野球部だったん

金山 女子の硬式野球部がある高校はとて少なく、自宅から遠く離れた学校へ入学。3年間を寮で過ごしたんですが、団体生活を通してチームワークを学べました。

―プロ入りを決意したのは？

ともなれば、寝ても覚めても野球ひと筋。道具は本格仕様だし、専用のスタジアムだってある。そんな環境で自分を試してみたくなりました。

日本女子プロ野球リーグにはトライアウトで合格。まさか受かるとは思っていなくて、嬉しいよりも驚きの方が大きかったですね（笑）。落ちたら野球は終わりにしようと思っ

金山 女子プロ野球チームとの合同練習で出会った皆さんから刺激を受けました。プロ

が良かったのかも。

―昨年に入団されたわけですが、滑り出しは順調でしたか？

金山 昨年のティアラカップ茨城大会決勝戦。私のプロ入り2安打目が劇的なサヨナラヒットとなり、チームのみんなと抱き合って喜びました！

―現在の目標は？

デザートバイキングをパクつきながらガールズトークに花を咲かせました（笑）。今後も続々開催予定ですので、ぜひホームページをチェックしてください。

金山 思った以上にプロは甘くありません。それまで私の守備位置だった内野は特に層が厚く、外野に転向してチャンスを伺いました。女子野球はライトゴロが多いのですが、素早く前に出て一塁で刺すプレーが要求されます。そこで私の武器である足の速さを活かせると考えたんです。積極的なアピールでシーズン終盤には出番が増え、今シーズンは開幕からスタメンに選ばれました。

―印象に残っている試合を教えてください。

金山 以前は個人のタイトルが欲しかったんですが、いつしかチームの勝利に貢献したい気持ちが強くなりました。単打でも四死球でもいいから塁に出る。走者がいれば着実に進める。そんな風にチームに尽くし、結果として「リーグナンバー1のトップバッター」と言われるようになったらいいですね。もちろんチームが優勝して、ファンの皆さんと喜びを分かちあえば最高です！

―女子プロ野球はファンとの交流も活発だとか。

いですね。「おかげで元気をもらいました！ 本当にありがとう！」。そんな思いを伝えたくて、試合終了後には選手がお客様をお見送りしているんですよ。ぜひ皆さんも球場まで遊びに来てくださいね！

金山 野球教室やイベントも盛んです。内容もユニークで選手と参加者が一緒に京都の名所を散策（スタンプラリー）したことも。女性ファン限定の「フローラ女子会」では、



ウエスト・フローラ
金山 亜莉紗 選手
かなやま ありさ

1994年生まれ、大阪府柏原市出身。日本女子プロ野球リーグ西地区フローラ所属。柏原リトルリーグ、福知山成美高校の女子硬式野球部を経て2013年に入団。外野手・右投げ・右打ち。試合中心に心掛けてるのは、どんな状況でも冷静なこと。そうすることで自分のチカラを出し切ることができるという。50メートルを6.8秒で駆け抜ける俊足を活かしたプレーに注目したい。ニックネームは「ありびー」。

本誌持参の方全員 無料ご招待!

11月8日(土)に「わかさスタジアム京都」で開催される女王決定戦第1戦。本誌を試合当日、球場外のチケット販売所にてご提示いただくと全員(お一人あたり最大5名様まで)無料ご招待とさせていただきます。

西地区優勝のフローラと東地区優勝のチームが年間女王を決める女王決定戦。是非1度、球場で女子プロ野球をご観戦ください。

詳しくは日本女子プロ野球リーグ公式HP
⇒ <http://www.jwbl.jp/>

Special Interview スペシャルインタビュー